

















■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(株)五菱 響灘西3号倉庫	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.4 /5	   	ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.0 /5	  	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5	 	がんばろう 
4 高齢社会への対応	- /5		よい 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつう 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.3
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.0	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.6	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 -	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物的一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

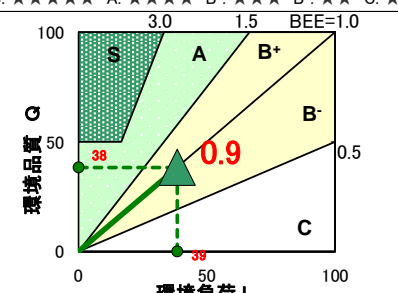
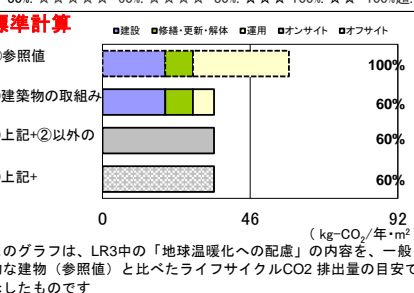
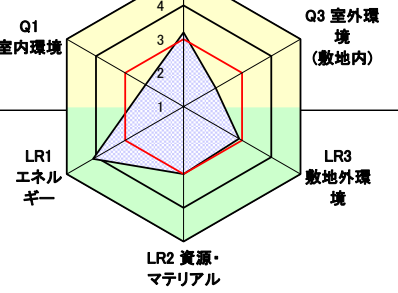
評価結果

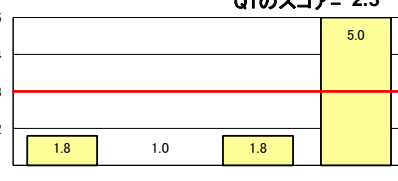
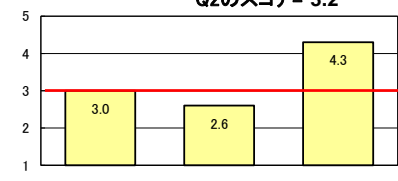
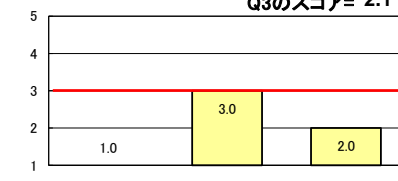
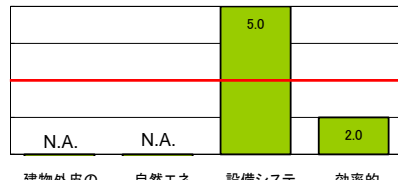
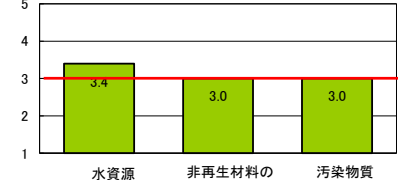
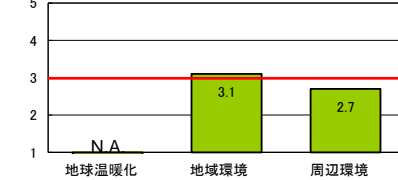
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)五菱 響灘西3号倉庫	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区響町1丁目1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	5 人
地域区分	6地域	年間使用時間	12,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2024年9月9日
敷地面積	13,083 m ²	作成者	甲斐 邦三
建築面積	5,084 m ²	確認日	2024年10月4日
延床面積	5,084 m ²	確認者	甲斐 邦三

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.9 ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.3 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1 
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 

3 設計上の配慮事項		
総合		
営業倉庫として、お客様の荷物を保管し、搬入・搬出作業がスムーズにできるように出入口を配置して、大型トレーラーなどが駐車できるようにしています。また、3号倉庫には、4台のクレーンを配置して作業が軽減できるようにしています。		
Q1 室内環境 保管物の搬入・搬出作業の時は、開口部を開けて作業をします。クレーンを使用しますが、電動式のため室内の空気を汚しません。	Q2 サービス性能 建物内は禁煙で、喫煙場所は敷地内に部分確保しています。	Q3 室外環境(敷地内) 庇を広く取り、屋外でも濡れずに作業ができるようにしています。また、門扉を広く取って前面道路からトラックの出入りがしやすく、出入口を2方向取ることにより出入がスムーズにできるようにしています。
LR1 エネルギー 屋内照明をLED照明を使用し、省エネ仕様としています。	LR2 資源・マテリアル 不燃材を使用した建物で、部分的に修理ができるようにしています。	LR3 敷地外環境 この地域は工業専用地域です。廻りは工場・倉庫等です。大型トラックの出入りには支障がありません。ゴミの分別収集用に、業者のバケツを用意します。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版

(株)三菱 響灘西3号倉庫

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 基本設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数	全体
Q1 室内環境					0.30	2.3
1 音環境				1.8	0.15	1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0
1.2 遮音				1.0	0.40	-
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0
2 界壁遮音性能				-	-	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0
2 温熱環境				1.0	0.35	1.0
2.1 室温制御				1.0	1.00	-
1 室温				-	-	3.0
2 外皮性能				1.0	1.00	3.0
3 ゾーン別制御性				-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	3.0
2.3 空調方式				-	-	3.0
3 光・視環境				1.8	0.25	1.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-
1 昼光率				1.0	0.60	3.0
2 方位別開口				-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策				1.0	0.30	-
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0
3.3 照度				2.0	0.15	3.0
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0
4 空気質環境				5.0	0.25	5.0
4.1 発生源対策				-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	3.0
4.2 換気				-	-	-
1 換気量				-	-	3.0
2 自然換気性能				-	-	3.0
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0
4.3 運用管理				5.0	1.00	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-
2 喫煙の制御		建物全体は、禁煙です。		5.0	1.00	-
Q2 サービス性能				-	0.30	3.2
1 機能性				3.0	0.40	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	3.0
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0
3 バリアフリー計画				-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	3.0
2 リフレッシュスペース				-	-	-
3 内装計画				-	-	-
1.3 維持管理				3.0	1.00	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	1.00	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.22	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.22	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.11	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.22	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.22	-
2.4 信頼性				1.0	0.20	-
1 空調・換気設備				1.0	0.50	-
2 給排水・衛生設備				-	-	-
3 電気設備				1.0	0.50	-
4 機械・配管支持方法				-	-	-
5 通信・情報設備				-	-	-

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	軒高12.55m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = (80+50)×2/4000=0.065	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
倉庫業の倉庫ため、床荷重3,900N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.20	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.40	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.40	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.22 照明:倉庫1.50w/㎡屋外駐車場0.64w/㎡	5.0	0.71	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.29	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	消防水槽を兼ねた水槽に側溝の雨水をため、場内散水に使用する。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.14	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.29	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造で外装板・内装板ともビス止で、取外しが容易です。	5.0	0.29	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	1.00	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.1	0.50	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。クレーンは電動式。	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペースを確保。	4.0	0.50	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.50	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	